

自己評価について

令和6年度 日南市立油津小学校自己評価及び学校運営協議会委員評価

【4段階評価】4…期待以上（8割以上）3…ほぼ期待どおり（5～8割未満）2…やや期待を下回る（3～5割未満）1…改善を要する（2割未満）

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価	
							評価	所見
教育課程の工夫・改善	PDCAサイクルを基にした教育課程の工夫・改善を図る。	常にPDCAサイクルを意識して教育課程を工夫・改善を行う。	学校関係評価の充実 ・行事ごとの評価 ・学期ごと及び年間の評価 ・学校評価の公表	学期ごと行事ごとの評価を集計して、次の学期・年度の計画・指導に生かす。	4	学期ごとの評価は、おおむね期待以上の評価であった。行事ごとの評価は不十分なものもあった。本年度の課題をもとに、各行事の取組を充実させていく。	4	地震・津波時の校外への避難は、地区的住民といっしょに行い、課題を整理していく必要がある。保護者との引き渡し訓練の工夫は必要であるが、学校周辺の交通状況を考慮した手立てになるよう一層工夫してほしい。
			デジタル教材の活用	デジタル教材を効果的に活用できる職員100%	4	2学期からAIドリルの利用を開始した。タブレットの持ち帰りを3学期から行っている。	4	タブレットの活用が充実しているので来年度も継続してほしい。
	地域の伝統・文化・人材の活用	地域と一体になって児童への教育効果を高めるための地域人材を積極的に活用	年間計画を見直し、年間2回以上地域人材を活用した教育活動を行う。	4	地域学校協働活動や油津地域協議会との連携を図り、生活科や総合的な学習の時間、社会科等での学年も計画的に実施している。	4	今年度も、地域と一体になった活動が数多く見られた。新聞やニュース番組等によく取り上げられていた。次年度も地域人材活用を進めてほしい。	
現職教育の充実	◎現職教育を充実し、教職員のスキルアップを図る。	主題研を中心とした研修の充実	主題研究とその他の現職教育の充実 ・研究内容の充実 ・授業公開の実施 ・授業評価の実施と反省 ・各学力調査の分析を生かした授業計画等の年間指導計画の見直し	一人一回以上の授業公開を行う。※代表授業の実施 学力調査の結果より、重点指導領域を決め、目標値を上回るようにする。	3	一人一回の授業公開や学年部での研究授業を実施することで日々の授業に活かすことができた。 学力調査の分析を2回に分けてを行い、授業改善について話し合うことができた。理解が不十分な問題の補充指導を行う。	3	授業公開の実際を聞き、教職員の授業改善への意識の高さを感じた。学力検査の結果については、もう一步の様子も見られる。引き続き取り組んでほしい。 学力検査の分析を継続して行い、来年度の成果につなげてほしい。
	「OJT」の充実	・初期研修やその他の研修を活用 ・教科担当を工夫したOJTを促進	教科主任を中心にOJTを活かした研修を組む。 月2回の学年研修の時に、教材研究を行う。	3	夏季休業研修や研究授業をとおして、教職員の資質向上を図った。 学年研修での教材研究が確保できない学年がある。取り組み方を工夫する必要がある。	3	次年度も教職員の資質向上につながるOJTの取組を推進してほしい。	

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価
基礎学力の向上対策	◎学び方を身に付けて、自らの課題を解決する能力を育てる。	○基礎学力が身に付く指導の工夫	一単位時間内の定着の時間の確保 定着の確認と個別指導 さわやかタイムの計画的活用	単元テストの平均が80%以上をめざす。	3	おおむね達成できているが、個人差が見られる。学習の取り組み方や学びに向かう力への意識は向上しているので、指導を継続して、より一層、意欲の向上を図りたい。	3 学びに向かう姿勢が高まっているアンケートの説明があった。授業参観や保護者の話では、年々学習態度がよくなっているようである。
			校内読書の推進	貸出冊数一人平均60冊読書をめざす。	3	図書委員会の活動や巡回図書司書の訪問、昼休みの図書室開放の再開により、数値目標を達成している。家庭への啓発が必要である。	3 中学校での読書量が低下していると聞く。図書館の図書は充実しているようであるので、引き続き、校内読書の心を図ってほしい。
家庭学習の充実対策	◎個に応じた家庭学習の指導を行い、自ら取り組む油津健児の育成を図る。	○学習習慣が身に付く家庭学習の指導の充実	【学校の取組】やるべきことがわかりやすい指導 個に応じた内容の検討 やる気を促す量や内容の工夫 見届けの徹底 【家庭の取組】学習環境作り 見届けの徹底	年度初めの参観日等を利用し、学習のきまり等を保護者に説明する機会を設ける。 家で毎日勉強をしている児童90%以上を目指す。	3	児童の実態に応じて、個別に指導したり理解度に応じた内容や量を与えていたりしているが、習慣化されない家庭も見られる。引き続き家庭学習への意欲の向上を図っている。	3 教職員、児童、保護者のアンケート結果のずれがある項目である。家庭学習に取り組んでいるか、家庭での見届けが不十分であることや家庭学習に取り組む時間に、物足りなさを感じていることも考えられる。今後も啓発が必要である。タブレットの宿題については、児童や保護者の反応を継続して把握していく必要がある。
校内での生活態度向上対策	◎集団生活の中で豊かな心をもった油津健児の育成を図る。	○「当たり前」実践指導の充実	「当たり前」実践指導の充実 ・あいさつの指導 ・廊下、階段の使い方の指導 ・言葉遣いの指導 ・清掃指導	・進んで挨拶をする児童100% ・右一無言の児童100% ・さん付け100% ・無言清掃100%	3	児童や保護者の自己評価と教職員の評価とのずれが見られる項目があるが、全体的によい傾向であり、児童のよりよい言動が増えつつある。継続して見守り見届けていく必要がある。	3 登校時のあいさつはだんだんよくなってきたが、個人差が見られる。学校で学んだことを、どんどん地域で発揮してほしい。

重点目標	教育目標との関連	方策	具体的な取組	・具体的な数値目標	評価	考察	学校運営協議会委員評価
校外での生活態度向上対策	◎主体的に判断し、行動できる自律的な規範意識を育む。	○休日や放課後等の生活指導の徹底	休日や放課後等の生活指導の徹底 ・連休前指導の徹底 ・放課後の生活指導の徹底 ・長期休業に関する指導の徹底 ・情報モラルの指導と充実	・交通事故0 ・5時帰宅100% ・お金のトラブル0 ・SNSのトラブル0	3	全体的には休日や放課後等に大きな問題は起らなかった。公共施設の使い方やお金の貸し借りの事案も見られる。全体指導や啓発、個別児童を継続していきたい。 時期によっては、5時帰宅が十分に守られていない様子が見られる。週末や長期休業前の指導を継続している。	4 運動場の開放がされている。放課後や週末に、元気に遊ぶ姿が見られる。夕方5時のサイレンで帰宅する様子が見られる。時期にもよるが、地域でも遅くまで遊んでいる様子は、あまり見られない。きまりをよく守っているようである。
基礎体力の向上対策	◎運動に親しみ、自ら体力向上に取り組む油津健児を育成する。	○運動の楽しさを実感できる体育科学習の工夫	楽しい体育の授業の充実、達成感・成就感を味わわせ、楽しく運動に取り組むための指導の工夫	授業で30分の運動量を確保する。	3	指示や説明を減らし、運動量を確保することを意識し、指導を行った。運動習慣や運動能力は二極化している状況にあるので、継続して行える運動や楽しい運動を工夫していく必要がある。	4 持久走大会では、児童のがんばりが見られた。学校での体育指導が生涯スポーツにつながる指導や声かけを継続してほしい。
生活習慣の向上対策	◎自他の健康に関心をもち、自主的に健康・安全な生活を実践しようとする資質や能力の育成を図る。	○体育科外での体力向上	学校生活全体を通した体力向上 ・外遊びの奨励 ・各種運動月間(持久走、なわとび) ・委員会活動の運動	週に3日以上の外遊びを奨励する。	3	よく遊んでいる子も多いが、室内で過ごすことを好む子もいる。運動に親しむ習慣づくりについて啓発していく。	3 たくましい体の育成には、体を動かすことが重要である。みんなで遊ぶ日等、運動の楽しさを感じ取らせ、運動に親しませる習慣づくりを継続してほしい。
		○生活習慣指導	学級、保健室における常時指導 ・早寝、早起き、朝ご飯の指導 ・歯みがき指導 ・手洗い指導 ・清潔チェック	・朝食摂取率100% ・歯みがきがしっかりとできる児童100% ・手洗いがしっかりとできる児童100% ・ハンカチ、ティッシュ携帯100%	3	朝食摂取率は90%程度である。朝食はとっても、内容が気になる児童もいる。給食後の歯みがきを促しているが、歯ブラシ忘れもあり、100%達成はできていない。手洗いをした後、ハンカチを使っていない児童やハンカチ・ティッシュを置きっぱなしにしている児童が少なからずいる。継続した指導が必要である。	3 家庭が担うべき項目の一つである。学校としては、生活習慣に関する指導と家庭への啓発を継続してほしい。
		○栄養職員との連携による食の指導	学級活動や総合的な学習の時間、給食指導等における食育指導 ・クラスルーム給食を活用した食育指導 ・「弁当の日」の継続	学期1回クラスルームを活用した食育指導	4	栄養教諭によるクラスルーム給食は予定通り学期1回実施でき、食の指導を充実させた。	4 栄養教諭を中心とした食育指導が充実している。昨年度も高い評価であったので、次年度は、児童の実態に応じた方策を考えることも必要である。

